

令和 7 年 11 月 4 日

東員町議会

議長 南部 豊 様

広報広聴常任委員長 広田 久男

視察研修報告書

研修期間	<u>令和 7 年 10 月 23 日 (木)</u> <u>～ 10 月 24 日 (金) 【 2 日間 】</u>
研修 (視察) 先	10 月 23 日…神奈川県開成町 10 月 24 日…神奈川県寒川町
目的 (テーマ等)	10 月 23 日、24 日…議会広報広聴の取り組み
参加議員名 (複数の場合)	広報広聴常任委員会委員(6 名)
資料添付の有無	専 　・ 　無

(備考) 広報広聴委員の報告は、委員提出レポートの通りです。

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

(字体は「BIZ UDP ゴシック」に変更しています。ユニバーサルデザインフォントと呼ぶ、誰にでも読みやすい字体)

★視察研修日;10月23日 研修目的;広報広聴の取り組み(神奈川県開成町)

1. 神奈川県開成町の概要

1)開成町(かいせいまち)は、神奈川県の西部に位置する町。

東京から 70km、横浜から約 50km の距離にあり、町の広さは東西 1.7km、南北 3.8km、総面積は 6.55km² (東員町面積 22km² の約 30%) の、小さな町である。

2)人口は 1 万 8700 人(2025 年 9 月現在) (東員町人口の 70%)、1970 年(昭和 45 年)頃の人口は 8200 人だったが、それから 55 年間 ずっと人口増加を続けている。

(全国のトップ 10 に入る人口増加率であり、本町とはレベルが違う増え方)

3)開成町の東には酒匂川が流れ、西には箱根外輪山、南には相模湾、北には丹沢山塊を望むなど、自然環境に恵まれた、なだらかな平坦地で、都市部への良好なアクセス(新幹線・小田急線・東名高速など)、そして、子育てに適したいろいろな支援制度が充実しており、定住移住人気が高いのは当然だと考える。

4)また、箱根につながる新道路が開通してからは観光客まで増え出し、インバウンド※になっている。(※外国からの旅行者が増えたこと)

2.開成町議会の概要

議員定数は 12 人(現在 12 人)、議員平均年齢は約 53 歳、70 歳代の議員は 2 名である。

ちなみに議員報酬は 26 万円／月、議長報酬は 37 万円／月である。

また、開成町は平成 27 年より「通年議会制」を導入しており、何の問題や不満もなく議会活動が成立している。(R6 年度実績は、定例会議 4 回と臨時会議 6 回)

3.研修概要／所感／成果(★で示す)

★全国から毎年 90 自治体(議会)くらいが開成町議会を視察研修に訪れている。

それくらい注目されている議会の歩みを知ることができた。

★議員が協力して新しいことに取り組んでいる。自分語で言えば ABC※が的確にできている、理想的な地方議会だと感じた。

(※ A=当たり前のことを、B=ほんやりせず、C=ちゃんとやる)

開成町議会から学んだこと、見習うべき点を以下に報告します。

3-1.議会改革

改革① 通年議会を導入…H26 年 12 月 条例制定し、H27 年 1 月から通年議会に移行。

改革② 日曜議会を導入…H17 年度より実施、現在は、開成町のビッグイベント「あじさいまつり」の開催日に実施している。(住民が議会に来てくれる日として選定した)

改革③ 議会 ICT 化の推進…ダブルネットによる完全ペーパーレス化(コピー用紙 16872 枚削減/年)

改革④ 議会映像インターネット配信…R3 年 6 月から開始、工夫を凝らした、圧倒される出来映えである！ (詳しくは次ページ)

改革⑤ 議会報告会…本町とほぼ同様のやり方、違うのは委員会報告などを動画制作し(2~3 分程度)、インターネットで配信をしていること。(住民は参加しなくても情報入手が可能)

- 改革⑥ 議場を夏休み期間は小中学生の学習の場として開放している。(利用人数 150~200 人)
- 改革⑦ 6 年生は公民の授業として 1 回/年議会勉強を実施…カリキュラムは毎年先生の要望を聞いて準備する。クラス毎(約 30 人)3~4 回行っている。90 分授業としている。
- 改革⑧ 小学校への出前授業…ざくばらんに児童たちと話し合い、まちを運営するために必要なことを最終決定するのが「議会」の役割だと言うことを、分かりやすく伝えることに注力した説明を行っている。
- 改革⑨ 議会インターンシップの受け入れ…高校生以上の学生に議会・議会事務局の役割を知つもらう機会を設けている。
- ★議会活動の取り組み内容が本町とは大きな差異のあることを痛感した。(見習うべきことばかり)

3-2.広報改革

(1)「ギカイだより改革」(広報誌)改革について

- ・一人でも多くの町民に、手に取つてもらう…デザイン一新・オールカラー化 etc の改良・改善。
- ・タブロイド版への変更…読む情報発信と「見る=魅せる」情報発信をすみ分けした。

★今は SNS の時代である、だから、早く・たくさんの情報発信ができるウェブサイトを重要視することにし、推進している。(議員が動画で話して伝えたほうが、住民へのインパクトが強い)

(2)議会独自のウェブサイト開設

- ・トップページは毎月更新している。…デザインは専門業者に委託して作成いる。
 - ・コンテンツを整理し、2 クリックで情報にたどり着くように工夫している。
 - ・議員紹介ページ…クリックして画面を切り替えるときに少し動くようにして、興味を引く工夫をしている。
 - ・目的の現地に出向いて自己紹介動画を作成している。いろいろと議員各自が工夫している。
 - ・一人当たり 1 分の動画にしている。字幕も補足説明にしたり、音声によるナレーションを後で挿入するなど、いろいろなやり方をしている。
 - ・委員会活動報告を短い動画にして発信している。例えば、広報広聴常任委員会の動画報告、総務経済常任委員会の動画報告など。
 - ・一般質問の予告動画と質問終了後インタビュー(当日の休憩時間に動画撮影する約 20 秒編集)事務局が撮影担当し、字幕は議員が入れてほしいことを事務局に提出する。
 - ・動画は早送り／遅い送り、字幕文字の色を変えることもできるようにしている。
 - ・開成町議会では一般質問の通告は 1 ル月前に提出することにしている。(過去からずつらしい)
 - ・動画配信用の素材として、「広報キッズモデル」を開始。(R5 年開始)
- ★開成町議会では映像配信システム=165 万円、Web サイト作成業務=214 万円(令和 7 年度予算)で、それぞれ専門業者に委託している。
- まずは本町議会として、取り組める範囲のなかで動画配信を試みてみたいと思います。

3.広聴活動の推進・充実

- ★「かいせい町民フェスタ」に議会として参加…議場などを開放し見学者の案内を行つたり、ざくばらんに見学者と話し合う時間を設けるなど、住民との交流を深めている。
- すばらしい取り組みであり、本町でもできないか検討したいと思います。

★視察研修日;10月24日 研修目的;広報広聴の取り組み(神奈川県寒川町)

1.神奈川県寒川町の概要

- 1)寒川町(さむかわまち)は、首都圏から 50km 圏内にある町。(東京駅まで東海道本線で約 80 分)
神奈川県の中間に位置し、おおむね平坦な土地。東は藤沢市、西は平塚市、厚木市、南は茅ヶ崎市、北は海老名市に接している。湘南地域の一角を占めている。
町域の面積は、13.42km²(東員町面積の 60%)で、東西 2.9km、南北 5.5km の小さな町。
- 2)寒川町の人口は 4 万 8300 人(2025 年 9 月現在)(東員町人口の 2 倍)、人口推移は 1995 年(平成 7 年)までは増加一途で推移していたが、現在は微増傾向で推移している。

2.寒川町議会の概要

議員定数は 18 人(現在 18 人)、70 歳代の議員は 1 名で、比較的年齢が若い議会ある。
ちなみに議員報酬は 36.8 万円／月、議長報酬は 47.9 万円／月である。

3.研修概要／所感／成果(★で示す)

1)委員会構成

・広報広聴委員会は議会運営委員会委員(7名)で構成しており、議長はオブザーバーとして参加している。(寒川町議会は会派制を導入しているので、議運委員会委員は各会派の代表者で構成している)

2)編集体制

・本町議会だよりは、表紙写真他全ページに掲載する写真は広報広聴委員が自ら撮影している。
一方、寒川町議会では議会事務局が写真撮影を担当している。

・「一般質問」の原稿は、一般質問を行った議員が質問部分の原稿を作成し、答弁の原稿は議会事務局が作成している。

★議員各自の文書作成スキルにより、執行部側答弁が異なって伝わる原稿になっている場合が散見され、編集に苦慮する場合がある。寒川町議会のように執行部答弁の原稿は議会事務局が担当する方法は、上記原稿課題の解決策の一つとして検討してみたいと考えます。

・「一般質問」以外の原稿は議会事務局が作成し、編集・レイアウト構成まで行っている。

広報広聴委員会は編集・レイアウト完成後の原稿確認と表紙写真の選定などを行っている。

広報誌発行ごとに 2~3 回(2~3 時間／回)の委員会で済んでいる。

★本町議会では広報誌に掲載する原稿は、広報広聴委員が分担して作成し、委員会を開き、住民に分かりやすい最善の原稿となるまで、全委員で何度も読み合わせ修正している。

寒川町議会の編集方法もあるが、本町の「広報広聴委員自らが原稿完成まで、納得行くまで取り組む」やり方は、長時間の委員会と委員各自に負担を強いているが、広報誌作成の実力アップになっており、本町議会紙づくりの方を自慢したいと感じた。

3)参考にしたい住民との交流活動

★広報広聴委員会が中心になって、「寒川町議会親子探検ツアー」(夏休み期間に実施)、「寒川町産業まつり」に議会ブースを出店などを行っている。住民との交流の場を設ける参考になる取り組みだと考えるので、ぜひ本町議会でも検討したいと思います。

2 日間の視察研修は、気づきと新たな発想をたくさん感じることができた有意義な研修でした。

以上

■広報広聴副委員長 伊藤 まり議員

研修概要、内容、所感

1.開成町 10月 23日 (木)

【研修概要】開成町議会の議長、委員長、事務局から『議会だより』の概要、動画による広報の編集などの説明をいただいた後、質疑応答によって理解を深めました。

【内容】

(1) 議会全体の概要と経過

・開成町は、良好な住環境と子育て支援の充実、および町独自のブランディングを推進した結果、継続的に住民が増加しています。この住民増に対応し、議会が機能を十分に発揮できるよう、平成27年度に通年議会へ移行しました。

(2) 議会運営と情報公開

- ・インターネット配信: 議会の様子をインターネット配信しています。映像の色や文字をバリアフリーにしています。
- ・議会報告会: 町民プラザだけでなく全地区で実施しています。
- ・議場の学習利用: 議場を学習の場として町民に開放しています。利用者は増加傾向です。これが発展した出前授業は、議員が学校に出向いて「町が何かを決定する際、最終的な決定は議会」と説明しています。
- ・インターンシップ: 高校生や大学生を対象にインターンシップを実施し、実習生はレポートを提出して修了証を授与されます。

(3) 広報活動(広報紙・ウェブサイト・動画)

- ・広報紙のモットー: 広報は「目で見て、心で魅了する」をモットーに、まず手に取ってもらうことを重視しています。
- ・デザイン刷新とダブル表示: 令和3年8月にデザインを刷新し、令和4年にはダブル表示に取り組んでいます。
- ・動画配信: 話した方が良い情報は動画で、スピーディーかつ短い時間で発信しています。
- ・ホームページ(HP): 見たい情報にツークリックでたどり着けるようにし、トップページは毎月更新しています。自己紹介は1分動画でまとめています。
- ・委員会活動: 動画で委員会の活動内容を伝えています。
- ・広報モデル: 広報に顔出し可能なキッズモデルを募集しており、その結果、キッズの保護者層にも広報誌を見ていただく効果をねらっています。

(4) 議会の合意形成

・議会のスムーズな運営と合意形成は、全員がおよそ同じ方向を向いているから。真反対の意見を持つ議員がいないから合意形成が可能になる。

【所感】

広報活動の質を高めると議会の透明性を確保できます。透明性が上がり、議会の動向、町の意思決定の顛末をリアルに伝えると、住民の議会への関心と参加意識が高まると思います。

リアルに伝えるために、開成町のように『議会だより』に加え、動画やモニターを活用するといいと思います。

2.寒川町 10月 24日(金)

【研修概要】寒川町議会の副議長、議運の委員長、広報委員長、事務局から『議会だより』の概要、議会のPR活動などの説明をいただいた後、質疑応答によって理解を深めました。

【内容】

(1) 広報紙の制作日数と写真撮影

- ・広報広聴委員会は議会運営委員会で構成しています。
- ・広報紙制作のための議員による会議は、発行サイクルあたり計2回開催されており、1回目が30分、2回目が2時間と、短時間です。
- ・広報紙に掲載する写真は、主に事務局が撮影しています。

(2) 広報紙の特色と議会改革との関係

- ・町のブランド戦略に合わせて、寒川町のブランドスローガンとブランドカラーを採用しています。
- ・広報紙の裏表紙に議会日程を掲載しています。
- ・広告を掲載しています。
- ・記事内容は、特に委員会で質疑が多く出た政策を取り上げるなど、関心度に合わせて編集しています。
- ・広報活動が議会改革と関連づけられています。議会改革推進委員会が主催する「議会探検ツアーア」の取り組みを紹介していただきます。
- ・議員が産業まつりに参加することも紹介していただきます。

【所感】

今回の視察で、広報紙を議会運営委員会が制作する手法を知りました。これは、昨年研修させていただいた、住民目線にこだわって編集していたかつらぎ町の手法と対照的です。

広報紙の制作主体が、議会運営委員会と広報担当委員会である場合、どちらが住民にとってより良い広報になるのか、考える機会になりました。

住民が議会広報に期待するのは、身近で関心を持つ紙面、読みやすいデザインだと思います。一方で、『議会だより』は議会が公式に発行する文書であり、議会改革を進めるための重要な手段です。広報を制作する委員会は、広報担当委員会でも議会運営委員会でも、議会のあるべき姿を基準に編集できる未来志向のチームにすることが大切だと思います。

以上

■広報広聴委員 三宅 耕三議員

広報広聴の取り組みについて(開成町) (10月23日)

1. 研修目的

近年、議会活動において住民との「対話」と「発信」はますます重要となっており、議会の広報・広聴活動の充実は議会改革の柱の一つとして全国的に注目されている。

そこで、広報紙の工夫や新たな情報発信手法など、先進的な取り組みを行っている神奈川県開成町議会を訪問し、広報・広聴活動の実践例を学ぶことで、本町議会の今後の広報広聴活動の参考とすることを目的として視察を行った。

2. 研修内容

視察は議会運営委員長の司会進行のもと行われ、冒頭に副議長から歓迎のあいさつとともに町の概要説明があった。開成町は県内で最も面積が小さい町であるが、住みよさランキングで上位に位置し、コンパクトな行政運営と住民との近い関係づくりを特色としている。

続いて、広報広聴委員長より、議会だよりの編集方針や発行体制、住民からの反応について説明があった。特に、写真や見出しの工夫、わかりやすい記事構成など、読みやすさを重視した誌面づくりに力を入れており、議員全員が編集に主体的に関わっていることが印象的であった。

また、視察団のために特別に用意された「ウェルカム動画」が上映され、議会事務局が作成したもので、私たちの訪問の様子をリアルタイムで取り入れた臨場感ある映像であった。こうした動画制作も議会広報の一環として実施しているとのことで、情報発信に対する意識の高さを感じられた。

3. 所感

今回の視察では、開成町議会が住民に「親しみやすく、伝わる議会」を目指してさまざまな工夫を凝らしていることを実感した。特に、議会だよりを単なる活動報告書ではなく、住民に読んでもらう“メディア”として位置づけ、デザイン性やタイムリーな情報発信に力を注いでいる点は大いに参考となった。

また、視察者を歓迎するために動画を制作するなど、議会事務局と議員が一体となって発信に取り組む姿勢は、議会全体の意識の高さを象徴している。こうした柔軟で創造的な発想は、本町議会の広報広聴活動を進化させるうえで大きなヒントとなった。

今後は、本町でも住民との距離をさらに縮める工夫を取り入れながら、わかりやすく、身近に感じてもらえる議会広報を目指して取り組んでいきたい。

議会広報広聴活動について(寒川町) (10月24日)

1 研修目的

本研修は、寒川町議会における広報広聴活動の取組状況を学び、東員町議会における今後の議会広報活動の充実および住民との意見交換の在り方の検討することを目的として実施したものである。あわせて、同議会の議会改革全般に関する取組姿勢についても理解を深めることを目的とした。

2 研修内容

冒頭、議長より歓迎の挨拶があり、その後、事務局から寒川町議会における広報広聴活動の一連の流れについて説明を受けた。説明後の質疑応答では、広報広聴委員会の正副委員長が対応し、具体的な編集体制や住民への発信方法、意見の集約の仕組みなど、実務的な内容について丁寧な回答がなされた。

寒川町議会では、単なる情報発信にとどまらず、議会改革全般においても積極的な姿勢が見られた。議員報酬については東員町より10万円以上高く、政務活動費は2倍の水準であり、議員活動の充実に必要な環境整備が進められている。不定期ではあるものの、これまでに複数回の報酬改定が行われており、社会情勢や議員活動実態に応じて見直しを実施している点が印象的であった。

一方で、報酬水準が高いとはいえ、それだけで生活が成り立つわけではなく、議員活動の負担感や責任の重さとのバランスを模索している現状も率直に語られた。全国町村議会議長会においても、議員報酬の適正化や引き上げの指針が示されている中、寒川町のように具体的な対応を進める議会の姿勢は参考になると感じた。

3 所感

今回の研修を通じ、寒川町議会が広報広聴活動を軸に住民との双方向の議会づくりを推進していること、また議員活動を支える制度面でも前向きに見直しを行っていることを学ぶことができた。

一方で、東員町議会では議員報酬や政務活動費の見直しに関する議論が停滞しており、議長を中心とした積極的な検討姿勢が求められる。議員が安心して職務に専念できる環境整備は、最終的に町民のための政策提言力向上につながるものである。寒川町議会の取組を参考に、広報広聴活動のみならず、議会の体制強化全般について今後の議論を深めていく必要があると感じた。

以上